



峡南橋

かけはし

第177号

2021年12月・
2022年 1月号

発行：峡南教育事務所
地域教育支援スタッフ

南巨摩郡富士川町鯉沢771-2
TEL:0556-22-8154
FAX:0556-22-8144
HPでも御覧になれます。
[http://
www.pref.yamanashi.jp/kyoiku
-mk/index.html](http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html)

峡南橋の親柱
西嶋和紙の里の
みずき
美濃ちゃん



目次:

子育て学習会実施報告	1
講師よりメッセージ	
峡南地推協新会長紹介	1
異校種連携セミナー	1
オンライン開催のお知らせ	
青少年育成身延町民会議	1
町長を囲んで語り合おう	2
南部町男女共同参画審議会	2
増穂商業高校 校章降納式	3
伝統芸能紹介 飯富太鼓	3
峡南高校演劇部	4
最後の演劇 有終の美	



明けましておめでとうございます。今期は、子どもから大人までさまざまな年代の人々の「前進するエネルギー」を取材中に感じました。暗いニュースを吹き飛ばし、元気に過ごしていきましょう。本年もよろしく願います。

地推協・峡南教育事務所主催 峡南地域 子育て学習会実施

十一月十八日(木)午後七時より身延町総合文化会館とオンラインにより認定力ウンセラ川邊修作氏による子育て学習会「子どもの心に寄り添って」を実施しました。保護者や教育者に寄り添った講演でした。



川邊修作氏

川邊氏からメッセージをいただきました←

この度は、峡南地域の皆様に私の拙い話を聞いていただける機会を設けていただき心から感謝しております。私は、子どもたちが将来、人として自立していけるようになるための基礎工事のお手伝いをしていただくと願っております。そのためには、乳幼児期から学童期に

峡南地域 異校種連携セミナー オンライン開催します

「発達段階に応じた子どもとの接し方」
～ 健康的な自己愛が育つ “かてい” ～

講師：公認心理師・臨床心理士 一瀬 英史 氏
日時：令和4年1月26日(水) 14:30～16:10

地推協新会長紹介

佐野貴宣前会長の任期終了により今村文子新会長が就任しました。

青少年育成身延町民会議 町長を囲んで語り合おう 2021

十一月十七日(水)中富総合会館で午後三時開始し、副町長・教育長・町民会議正副会長と身延三小(身延清稜・下山・身延)の児童、身延中の生徒が参加し、二つのテーマについて意見を交わしました。この会は「子ども達の夢や希望を知る機会」の場を設けようと、平成十七年から始まりました。

当日参加者は、□の字型会議形態で感染症対策の仕切りがある席に着きました。最初に伊藤稔町民会議会長の挨拶があり、開催できたことへの感謝、小中学生が素直なこと、町のことを真剣に考えていて嬉しいこと、町の宝である子どもに未来を託したいことなどを述べました。

今号の1枚は、成瀬貴弘指導主事です！
南巨摩合同庁舎正面玄関前で



自然を愛し
人を愛す

「難を転じる」
縁起物・南天

（二面より続く）が好評なことに触れました。その後、シエスチャーだけで誕生日の日付順に並び「バースデーライオン」という簡単なゲームで会場の雰囲気は打ち解けました。

二つのテーマで町長との語り合い開始

①身延町に生まれて良かったこと、感じたこと

小学生は、給食費や医療費などの町の補助や登下校を見守ってくれる地域の人々への感謝を、吹奏楽部員の中学生は、人口密度が低いことを長所に捉えていて周りを気にせずに活動ができることや「街灯を増やして欲しい」という要望があったことを話すと、町長は街灯の管轄である集落の区長に要望を出すことよいかを助言しました。また「身延町を好きな生徒は多いが、将来住みたいかとなると『わからない』という回答が多い。住みたい町になるためには、



望月幹也町長



みんなが関われる場所を」と言う中学生に「それは毎年の課題。令和五年四月にオープンする下部温泉健康施設（当日模型展示）はスポーツジムや温泉施設だけではなく、子どもが使えるように整備する」と具体的な策があることを話しました。

「ゆるキャン△やみのワンでさらにアピール」という子どもの意見に対して町長は、「みのワンは町も同じ考え。ゆるキャン△は版權がなく難しい」と答え、版權という難しい話も子どもに分かる言葉で説明していました。子どもから、小児科のある病院を増やし、診察時間を広げて欲しいという要望がありました。町長は「こども専門医制度（専門医免許をとるために大病院に行かなければならないこと）を挙げて、医師の確保がどうして難しいかを子ども達が理解できるように説明しました。」



みのワン・もーん父さんも来てくれました。

入学金に入学するよいきっかけとなれば嬉しい。教育支援は税金から町民に大切に育てることを心に留め

全ての人が自分らしく！ 南部町男女共同参画審議会

峡南五町では、条例により男女共同参画社会を推進し、性別に関係なく全ての人が互いに人権を尊重し、伸び伸びと能力を発揮できる社会を目指しています。その中で南部町の取組について取材しました。

南部町男女共同参画審議会

事務局は役場にあり、現在は公募で決定した審議委員は五名です。月一回の定例会は活発で前向きな会となっております。主な取組は、南部町広報誌の隔月刊で男女共同参画社会について発信したり、町内保育所で園児の発達段階に合わせた紙芝居で啓発したりすることです。紙芝居には「それぞれの違いは個性で、違っていい」という



立派な木枠も紙芝居も審議委員の手作りです

となく回答していたのが印象的でした。また、参加した大人が発言を否定したり遮ったりせず、耳を傾け、子どもが安心して発言できる環境を作ったことで、緊張しながらも子ども達は思っていることを、自分の言葉で一生涯伝えることができると感じ、それぞれの年代の夢や希望を楽しく語り合う場にするという目標は達成されました。

目指すところ

大きな変化というよりは、緩やかに人々の意識に男女共同参画社会の考えを広めていくことです。「こういう選択肢もあるんだ」と知ってもらい、気づきを与えられるような活動を続けていき、少しずつ浸透していくことを目標としています。南部町広報誌「輝け！なんぶ！」をご覧下さい。

全体を通して

町長が丁寧に取りこぼすこ

意見交換後、感想発表

各校の代表が「他の学校の意見を聞いて良かった」「他にない面白い町になって欲しい」「身延町について歴史など知らないことも多かった」「（町長に）ひとつひとつ答え

増穂商業高校

校章降納式

今年度で閉校する三高校のうち市川高校は、昨年度六月に校章移設式、峡南高校は三月に校章降納式をそれぞれ行いました。増穂商業高校は校舎の引っ越しを昨年三月に行い、十二月二十四日金に校章降納式を行いました。

午後二時三〇分開式



式に先立ち参加者全員に見守られて、校章が校舎から外されました。その後増穂体育館で三年生七〇人、P

TA正副会長、同窓会正副会長、元校長などの来賓と教職員が参加し、開式しました。

小林智校長は、若林業務員が毎日少しずつ剪定や草取りをして、当日のために整備してくれた事への感謝を伝えてから挨拶しました。昭和三十一年増穂高校として始まり、六十五年十ヶ月の間、地域と共に歩み多くの商業系人材を輩出してきたことや、翼と蛇と杖で構成された校章は商業の神・ヘルメスと深い関わりがあることなどを話し、「明日

からは、青洲高校に設置された校章がエールを送り続けてくれる。閉校の日に向かって増穂の教育を全うすることを誓います」と締めくくりました。



次に井上和男同窓会長は「一つ一つイベントが終わる度に閉校を実感する。校章の蛇は知恵者を表す。商業人は知恵者となれ。自分も知恵者を目指して歩んでいく。商業人の心を常に持って社会へ出てください」と挨拶しました。最後に生徒代表の信田桃さんが「青洲高校舎で九ヶ月過ぎて、久々に旧校舎に来て懐かしい。校章が下ろされても伝統は青洲高校へ引き継がれ途絶えることなくますます発展すると信じている。残り少ない高校生活を大切にしたい」と挨拶し、録音された校歌が流され、参加者は心の中で歌い終了しました。

近づく三月の三高校閉校 増穂高・市川高・峡南高の閉校まで、引き続きご支援よろしくお願ひします。



校章を囲む生徒と小林校長

颯爽と演奏する 山下さん



峡南地域には、地域それぞれの和太鼓の伝統があり年齢に関わらず楽しめる趣味や、小中学校での伝統芸能体験として人気があります。その中で飯富太鼓を紹介し

峡南地域の伝統芸能紹介 身延町 飯富太鼓

飯富太鼓の歴史

飯富太鼓発祥の由来は武田の時代にさかのぼり、武田二十四将の一人、旧飯富村出身の飯富虎政（おぶらまさ）にちなんでこの名がつけられました。飯富の地形は、早



川と富士川の合流点に位置しており、昔から水害に悩まされてきました。そのため台風や大雨の際に危険を知らせる自衛手段として太鼓を打ち鳴らしたことが始まりです。「飯富太鼓保存会」は「昭和六十一年の秋祭りに飯富太鼓の響きを再現しよう」という思いが集

落や公民館を中心に盛り上がり、大人も子どもも参加して結成されました。町内外の祭りや諸行事に出演し旧中富町の音頭にも歌われるなど町民に愛されてきました。

ことぶき勸学院 一年生が体験

保存会会長であり、勸学院生でもある山下利彦さんが講師となり、十一月十六日(火)午後二時三〇分より、旧原小学校体育館で、二回目の練習を開始しました。最初に、太鼓を打つときの姿勢（打っていない方の手は真っ直ぐ伸ばす）を確認しながら、全員で左右交互に規則正しいリズムで合わせました。それから、楽譜を見ながら順番に指導を受けましたが、左右交互に打ち続けるわけではなく、リズムが△を変えながら同じ手で続け鳴らす部分もあり、思うように演奏するには練習が必要でした。山下さんは厳しくも温かく指導し、うまくいくと褒めてくれるので、それも励みになり、参加者は演奏がぴたりと喜びました。個人練習する人や床に敷いたマットの上でばちを鳴らす人、日常生活の中でリズムをとる人など、太鼓には

認知症予防にも効果的

和太鼓は、脳の血流を増やし、集中力を高め、ストレスを解消や癒し効果もあるそうです。体を動かし、リズムがあるため、集団で演奏できるので、どの年代にとっても楽しみながら健康になれる楽器です。

山下さんの言葉から

飯富太鼓(和太鼓)の魅力 太鼓の音は、日本人の心で、それも奥深くまで響き、心を揺さぶられるような太鼓の音を聞いたとき、人は感動を覚え、ある種の郷愁すら感じる。それは、そのリズムが心の琴線に触れて増幅し、血を沸き立たせる力を持つからです。日常の生活のなかでリズムをとるだと思っ



『二人だけの演劇部』 峡南高校最後の演劇

有終の美



部員の2人
中島健太朗さん (部長) 市川 綺邦さん (脚本)

毎年十一月、高校文化局県大会芸術文化祭(芸文祭)が開催されますが、年度の全国高校総合文化祭の予選でもあり、生徒は全国出場を目指し、日々活動しています。演劇部門は全十五校中、予選を突破した八校しか県大会に進むことができません。峡南高校は部員二名で挑み、二年連続県大会に出場しました。大会前の活動の様子をお伝えします。

午後四時、測量実習室にて

赤池重基先生の指導の下、中島健太朗さん(早川中出身)と市川綺邦さん(南郡中出身)は発声練習後通し稽古を始めました。劇は「峡南高校演劇部が学園祭の出し物について話し合い、学校の歴史を振り返る」というものでした。まず「冷蔵庫のプリンを勝手に食べたら犯罪か」「信玄と、ライオンスタンプを発売する信虎の争い」を楽



舞台いっぱい
伸び伸び演技!

しいコントで提案しますがまとまらず仲違いしてしまします。そして入学時の回想シーンとなり、二人が応援部顧問のスカウトを何とか断り、演劇部に入部するまでのやりとりを、表情や声で上手に演じ分けました。現在に戻り駅清掃当番(峡南高の伝統)で一緒になった時の気まずい雰囲気や台詞なして表現し、「ごめん」と同時に息を合わせて謝ります。仲直りした二人は出し物を「峡南高校の歴史」に決め「峡南魂・工業科・演劇部の歴史」などを効果的に劇で紹介します。応援部が一年生を指導する「応援練習」は二人が交代で応援部員と当時の



自分を演じ「久那土川」が歌詞に入っている応援歌を歌います。甲子園二度出場を紹介すると、野球応援の場面になり、二人は学生服に着替えて応援の型と共に校歌を熱唱しました。学校に貢献した応援部や野球部にしみじみ思いを馳せた後は、演劇部の歴史を伝えていきます。昨年の芸文祭回想シーンでは「工業高校として馬口ロボットを製作し動かす」場面を取り入れました。演劇部について話しているうちに「入部の理由は早く帰れて土日の部活がないことだったが、演劇が好きなきことに気付いて楽しい毎日を送った」と語り合う場面へ。「峡南高校の幕は閉じるけどみんなの心に残る。新しい学校に引き継いでもらいたいよな」との台詞の後、スクリーンには峡南高校のさまざまな場面が映し出され劇は終了しました。



映っているのは
学校周辺清掃と
本栖湖清掃

自分も様々な人とコミュニケーションをとれるようになった。成長したと感じる「市川さん「落ち込んでいて気分がのらなくても、面白い役をやると明るくなる。演劇の力はスゴイ」赤池先生は「最初は指示しないと動けなかったが、演技や脚本をくみ取り考えて動けるようになった。指導してきて、二人の成長を見届けたことが嬉しかった」とのことです。

後日、顧問の天野秀雄先生からメールを頂きました。峡南高校演劇部は山梨県高等学校芸術文化祭賞・山梨県高等学校演劇連盟優秀賞二席三位に相当を頂くことができました。閉校する母校に寄せる諸々の想いを込めて生徒が一生懸命演じましたので、有終の美を飾ることができたと思います。

峡南高校愛に溢れた作品
今回の劇は、二人の入部動機や演劇にかける気持ちなどの実話を基に、市川さんが脚本を作成しました。音響や照明は部員の友人達が引き受けてくれたので、演者は演技に集中できています。閉校への感傷に浸るだけではなく「何かを残したい、自分達の思いを伝えたい」というエネルギーのある作品で、端々に工業高校の誇りを感じるものでもありました。
した。最も印象的な出来事は二人の出会いで、第一印象や第一声「(応援部を断るのに)どうする?」までも鮮明に覚えているそうです。赤池先生も、当時部員は三年生一名で、廃部危機にあった時、二人が入部したのでその出会いを忘れられないそうです。役を演じるにあたって中島さんは「思っているようにできないときは、自分を追い込んで辛い」市川さんは「気持ち沈んでいるときに自分の人格を置いて役を演じなければならぬのは大変」と言っていました。けれども、演じているうちにパワーが出てくることも確かです。演劇の力はすごいそうです。

峡南高校で良かった!